令和5年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【つばさ小学校】

① 目 標・策

	目 標		策
知識・技能	国語（漢字や語彙）、社会、算数（基本的な計算）、理科、G・Sについて、学期ごとのまとめテストにおいて、学級平均8割以上の正答率となるよう定着させる。学習状況調査等で、前の学年の学習内容について問う問題の正答率を向上させる。	⇒	「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。レディネステストや振り返りテスト等、児童の実態把握に努め、個に応じた支援を施す。学習の系統性をもたせた指導の一層の推進を図る。
思考・判断・表現	国語、社会、算数、理科、G・Sにおいて、学期ごとのまとめテストでの「思考・判断・表現」項目を学級平均8割以上の正答率となるよう定着させる。学習状況調査等で、資料に基づいて考えたり、資料を活用して表現したりする内容の問題の正答率を向上させる。	⇒	教科等を通して、「書く」「伝え合う」活動を協働的に行える授業づくりを推進する。タブレット端末を活用するなどして、自分の考え等を提案したり、共有したりする活動を日常的に授業の中で行う。各教科等において、資料を活用して考えたり表現したりすることに重点を置いて指導する。
主体的に学習に取り組む態度	各教科において児童の「勉強が好き」という意識を醸成し、学習状況調査等における各教科の勉強が好きかを問う項目の肯定的な回答を、教科ごとの学校平均値で昨年度比5ポイント向上させる。	⇒	「学びのポイント」（じ・しゃ・ク）を活用した授業実践を推進し、児童が学ぶ楽しさや有用感を味わえるようにする。校内研修の一環として教員同士で授業を公開する機会を増やし、授業改善に努める。

② 全国学力・学習状況調査結果・分析

知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語-2pt、算数＋2ptであった。国語の漢字の問題で同音異義語の誤答が多かった。算数では、紙を折った場面を想定した図形の問題で正答率が低かった。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語＋6pt、算数＋2ptであった。国語では、R4年度と比べて「A話すこと・聞くこと」「C読むこと」は向上した一方で、「B書くこと」の正答率は低かった。算数では図形に関する記述式の問題において正答率が低かった。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査の「児童質問紙」において、R4年度の自校の結果と比較し、「国語の勉強は好きですか」の質問に対する肯定的な回答は＋5pt、「算数の勉強は好きですか」の質問に対する肯定的な回答は＋10ptで、向上した。

③ 中間期見直し（全国学力・学習状況調査結果分析後）

	目 標		策
知識・技能	変更なし	⇒	①の策に加えて、「スタディサプリ」や「ドリルパーク」を活用する際には、他学年（下学年）の問題にも取り組むようにさせる。漢字の学年別配当表の活用を意識させ、漢字の定着を図る。算数では具体物の操作を取り入れた指導の充実を図る。
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし

④ さいたま市学習状況調査結果・分析

小3		小4	
小5		小6	

⑤ 目 標・策の達成状況

		評価（※）
知識・技能		
思考・判断・表現		
主体的に学習に取り組む態度		

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と改善策

知識・技能	
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	